

「炭素」 投稿規定

2013年1月15日改正
2013年1月15日実施
2016年6月15日改正
2016年6月15日実施
2017年1月15日改正
2017年1月15日実施
2020年1月15日改正
2020年1月15日実施
2021年12月14日改正
2021年12月14日実施
2023年12月1日改正
2023年12月1日実施
2024年12月1日改正
2024年12月1日実施

1. 目的

炭素材料学会機関誌「炭素」は、広く炭素材料に関連する独創的な論文、コミュニケーション、解説・総説類および興味あるトピックスを掲載して、炭素材料に関する研究の発展に資することを目的とする。

2. 原稿の種類

原稿の種類は炭素材料に関連する和文の(1) 論文, (2) コミュニケーション, (3) 総合論文, (4) 総説, (5) 解説, (6) 技術報告, (7) 資料, (8) 会員交流関係記事, とする。

2.1 論文

論文は炭素材料に関する価値ある結論あるいは新事実を含むもので、原稿には、要旨、緒論、実験方法、結果、考察、結論を記述すること。注釈と参考文献は原稿の末尾に記載すること（詳細は4.7項を参照）。

2.2 コミュニケーション

コミュニケーションは断片的な研究であっても新事実や学術的・工学的価値ある内容を含む簡潔な研究報告で、原稿の形式は2.1項に準ずる。

2.3 総合論文

総合論文は主に著者自身による既発表論文を基に統合的な議論を行い、質的に新たな知見や考察を加えたものである。

2.4 総説

総説は炭素材料に関する特定のトピックについて著者の観点から重要な論文を取り上げ、広い視野での説明を与えるものである。

2.5 解説

解説は炭素材料に関する特定のトピックについて自身の研究を平易に説明するものである。

2.6 技術報告

技術報告は実験装置・設備の工夫、試験・運転の新しい知見、新しい測定の原理、方法やアイデア、各個人や法人が所有する特許の概要等を簡潔にまとめたものである。

2.7 資料

資料は研究・技術に関する参考資料および調査、集計報告などを提供するものである。

2.8 会員交流関連記事

炭素材料ならびに学会員に関するトピックス（談話室、わこうど

の声、研究室紹介、書評他）や意見等を発信する場を提供するものである。

3. 投稿手続きおよび原稿の取扱い

投稿原稿の著者は、本誌の目的に沿う内容について日本語で記述する。原稿は投稿規定に従って、MS-Wordにて作成する。原稿はMS-Wordファイルの形式にて、下記の宛先までE-mailに添付して提出する。原稿のE-mail添付が困難な場合（容量が大きいなど：10 MBを越す場合は、ファイル転送サービス等を利用するか、原稿の入ったメディア（CD-RやUSBフラッシュメモリ等）を下記の住所に送付する。なお、編集委員会・編集室において本文、図表および写真の品質を精査し、再提出を求めることもある。

E-mail: tanso-edit@bunken.co.jp

〒169-0801 東京都新宿区山吹町332-6

パブリッシングセンター

(株) 国際文献社内

炭素材料学会編集委員会

TEL: 03-5389-6492, FAX: 03-3368-2830

3.1 受理および採択

原稿が本会に到着した日をもって受理日とし、編集委員会が採択を決定した日を採択日とする。

3.2 査読

編集委員会は受理された投稿原稿を適切な研究者に査読依頼する。

3.3 再提出

査読の結果、修正のうえ再提出を求められた原稿は、基本的に2ヶ月以内の提出が推奨される。

3.4 著作権

炭素材料学会機関誌「炭素」に掲載された記事の印刷、刊行、図表の引用および転載に関する許可の権限、ならびにインターネット上での公開などにかかわる公衆送信権は炭素材料学会に帰属する。掲載記事（英文要旨も含む）のデータベース化、二次的使用、電子的／光学的複写の許諾権は炭素材料学会に委託されたものとする。また、これらによる使用料は炭素材料学会に帰属する。著者が「炭素」に掲載した記事をインターネット上で公開する場合には、事前に炭素材料学会から許諾を受けるとともに権利表示ならびに典表示すること。著作権譲渡承諾書は、J-STAGE (<https://www.jstage>).

go.jp/browse/tanso/-char/ja)よりダウンロードすること。

3.5 WEB出版とPOD出版

炭素材料学会機関誌「炭素」のすべての記事はJ-STAGE上でWEB出版される。「炭素」はWEB出版に加えて、会員等の要望により随時PODによる冊子体での出版が行われる(有料)。

3.6 執筆料

依頼原稿の著者に対しては、原稿の掲載が決まった後に執筆料を支払うものとする。

4. 原稿の要件

寄稿原稿は以下の要件に沿って日本語で記述する。

4.1 原稿の作成について

原稿はMS-Wordを用いて作成する。原則として、フォントは10~12ポイントのサイズの明朝体を用い、レイアウトはA4判縦置きで横書きにて記述する。

4.2 表題

原稿の1ページ目に表題、著者名、所属機関およびその所在地を記す。Corresponding Author(連絡著者)に*を付し、脚注にE-mailアドレスを記す。

4.3 英文要旨

原稿の2ページ目に題目、著者名、所属機関とその所在地の公式英訳名を記すとともに、200語以内の英文要旨と5個以内の英文キーワードを記す。要旨は英文のみとし、日本語の要旨は付けない。

4.4 本文

本文は3ページ目から記述し、章の記号は1., 2., 3., …, 節の記号は1.1, 1.2, 1.3, …, 項の記号は1.1.1, 1.1.2, 1.1.3, …の要領で用いる。略語や物理量を表す変数などを用いる場合は、最初に使用する際に定義を示す。また、人名は原語表記を原則とする。

原稿の全てのページには連番でページ番号を付す。1ページに35字×32行程度のレイアウトの場合、原稿3ページが刷り上がり1ページに相当する。図は8×7cm程度の場合、およそ6個で刷り上がり1ページに相当する。

4.5 図表

図、表は本文中には挿入せず、本文の後にそれぞれ独立したページに示す。図表の番号は本文中に現れる順に連番を付してボールド体で**Fig. 1**, **Table 1**, **Photo 1**, **Figs. 1-3**のように表す。また、図表等の中の文字およびそれらの説明文は英文で記述する。

4.6 転載許可

図・表の転載は投稿前に著者の責任で転載許可をとり、図表中の

説明文に引用元ならびに転載許可されている旨を明記すること。

例) 1) Reprinted with permission from ref. 42. Copyright 2012 Carbon Society of Japan.

4.7 引用文献

引用文献は引用の順に通し番号を付け、本文中での引用箇所には、その文献の番号を上付き数字によって¹⁾, ³⁾⁵⁾⁶⁾, ³⁾⁻¹²⁾, などの要領で記す。引用文献リストは本文の末尾に以下の書式にもとづいて記述する。

- 1) S. Evans and H. Marsh, *Carbon* **9** (1971) 733-738.
- 2) C. J. Kepert and M. J. Rosseinsky, *Chem. Commun.* **1999** 375-376.
- 3) T. Kyotani and H. Nishihara, *Shokubai (Catalysts & Catalysis)* **55** (2013) 376-381 [in Japanese].
- 4) S. Mizushima, *TANSO* **1968** [No.52] 9-14 [in Japanese].
- 5) T. Terai, T. Furuta, K. Kusagaya and Y. Takahashi, *Jpn. J. Appl. Phys.* **30** (1991), in press.
- 6) T. L. Barr, *Modern ESCA* (1993) pp.121-123, CRC Press, Boca Raton.
- 7) L. R. Radovic and F. Rodriguez-Reinoso, *Chemistry and Physics of Carbon*, Vol. 25 (P. A. Thrower, ed.) (1997) pp.243-358, Marcel Dekker, New York.
- 8) Y. Matsuo, *Seramikkusu no Rikigakuteki Tokusei Hyouka* (T. Nishida and E. Yasuda, eds.) (1986) pp.135-138, Nikkan Kogyo Shinbun-sha.
- 9) B. E. Conway, *Denki Kagaku Kyapashita (Electrochemical Supercapacitors: Scientific Fundamentals and Technological Applications)* (K. Naoi, A. Nishino, and T. Morimoto, eds. and trans.) (2001) pp.3-10, NTS.
- 10) N. Bartlett and B. W. McQuillan, *Intercalation Chemistry* (S. M. Whittingham and A. J. Jacobsen, eds.) (1982) Chap. 2, Academic Press, New York.
- 11) K. Nueangnoraj, H. Nishihara, M. Terauchi and T. Kyotani, *The 37th Annual Meeting of the Carbon Society of Japan, Himeji, 2010.12.1-3*, 1PII39.
- 12) S. Shiraishi, M. Kibe and A. Oya, *Carbon 2004*, Providence, RI, USA, 2004.6.11-16, E022.
- 13) M. Inagaki, *The 117th Committee Meeting of Japan Society for the Promotion of Science*, 117-207-B-3 (1991) [in Japanese].
- 14) A. C. Smith, U.S. Patent 3390940 (1988).